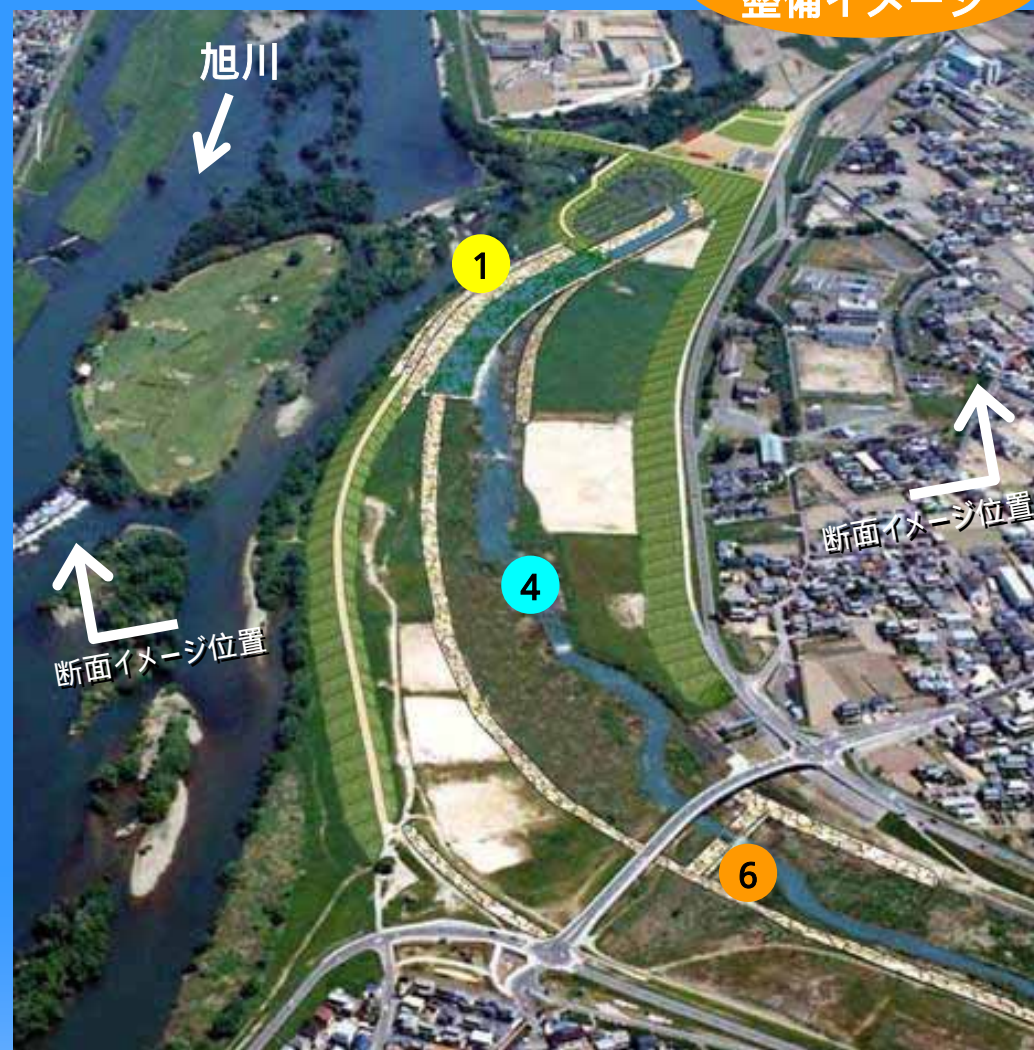


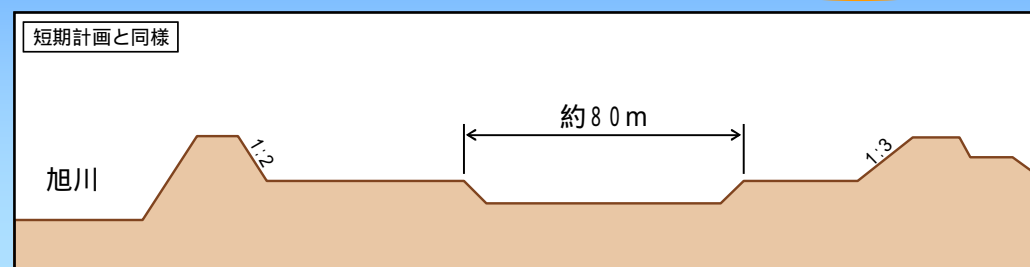
中長期計画の概要

項目	目的	整備内容
1 一の荒手	計画流量に応じた洪水を安全に流す分流機能を整備する。	越流部の幅を、さらに拡げる。 減勢池を拡張する。
4 河道整備	計画の洪水を安全に流すための河道を確保する。	百間川橋の改築までに低水路幅を拡げる。
6 二の荒手	計画流量に応じた洪水を安全に流すための断面を確保する。	低水路区間を切り下げる。

中長期計画 整備イメージ



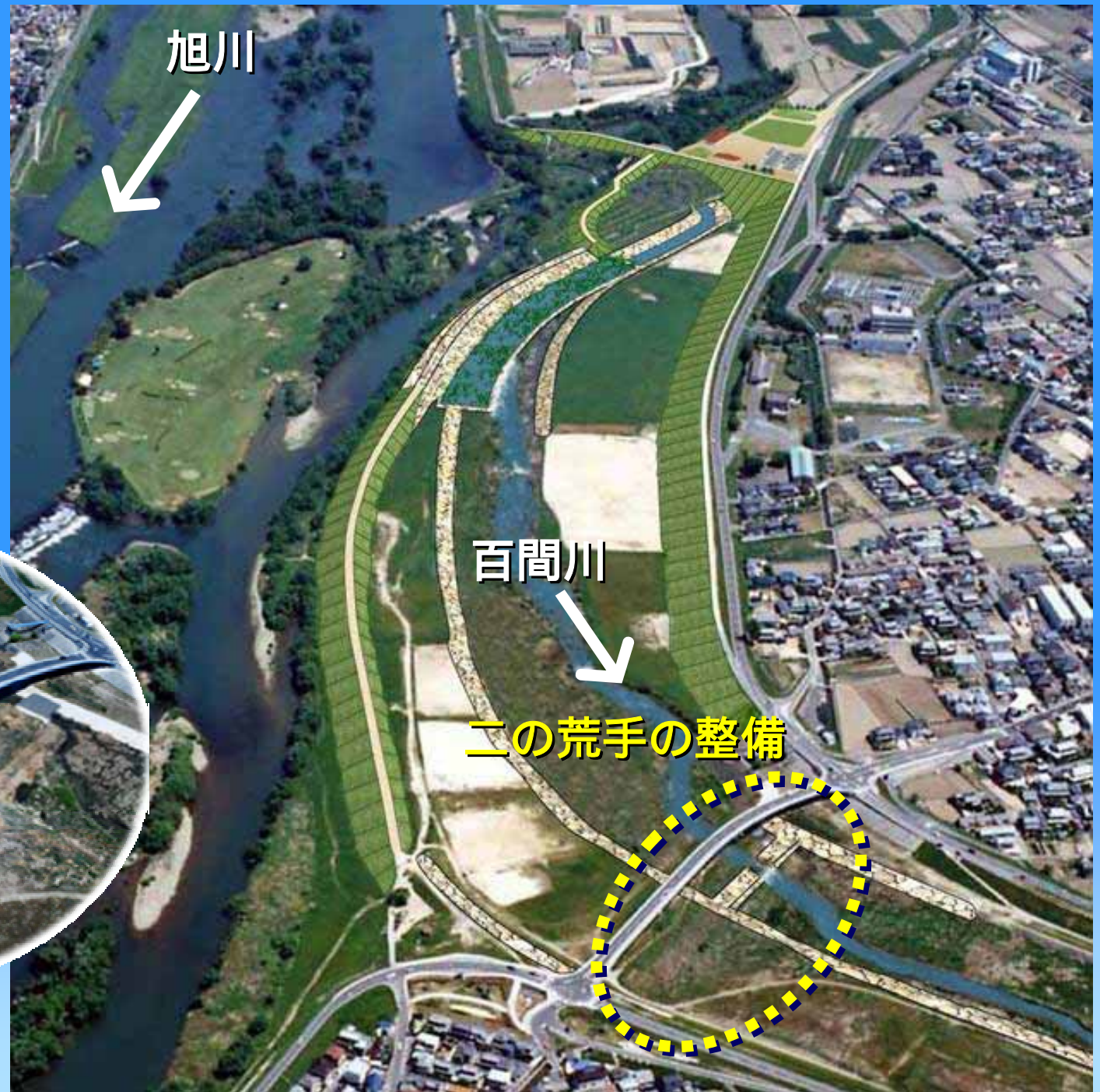
断面イメージ



短期計画での整備イメージ

6 . 二の荒手の整備

全体整備イメージ
(中長期計画)



現在の様子

* 短期計画では現況のまま保存

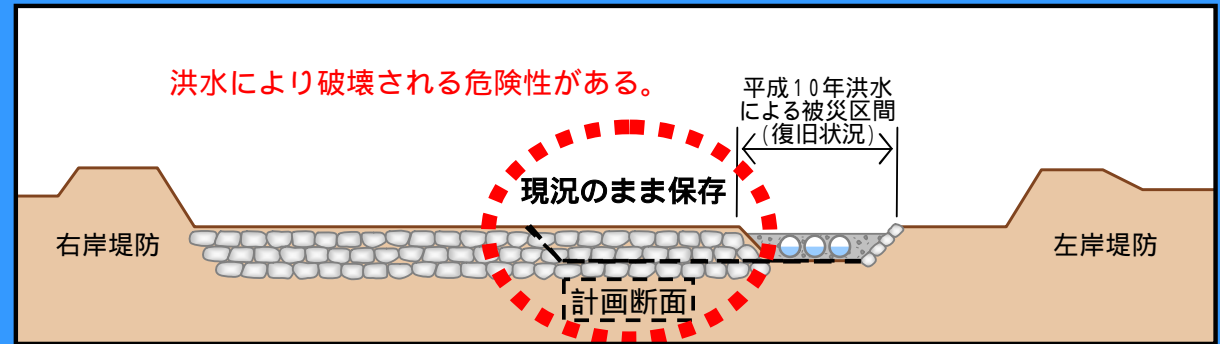
6-1. 二の荒手の整備計画（概要）

短期計画

目的

現況のまま保存する。

現況(短期計画)のイメージ



中期計画

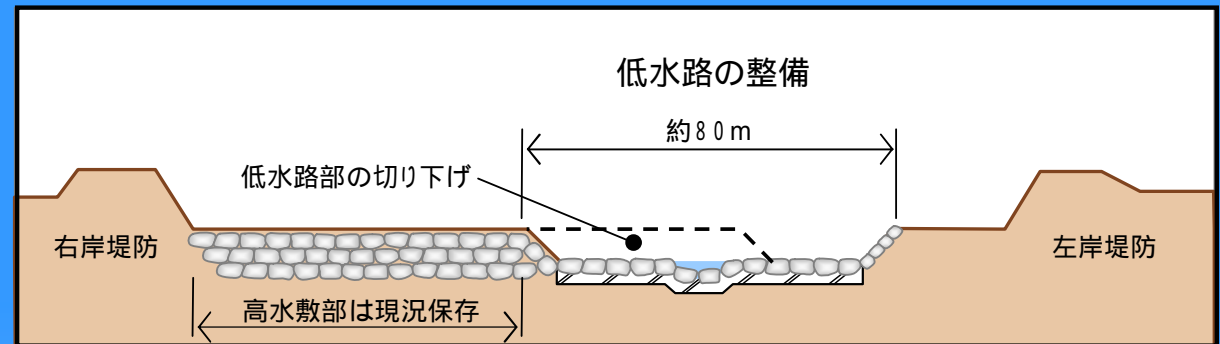
目的

計画流量に応じた洪水を安全に流すための断面を確保する。

整備内容

低水路部を切り下げる。

中長期計画の整備イメージ



発掘調査時の様子(平成6年3月)



現在の様子



6-2 . 二の荒手の整備に関する検討経緯 [二の荒手調査委員会]

【平成3年】

* 委員会 2 回開催

百間川改修に伴う中島橋梁工事にて、二の荒手を一部撤去する必要が生じ、「二の荒手調査委員会」を発足し、調査および保存方法を協議。

当委員会による発掘調査の結果に基づき、二の荒手の取り扱いについて検討することとなる。

【平成4～7年】

* 委員会 4 回開催

二の荒手の保存方法について水理模型実験を実施。

この結果にて、河川管理者側は撤去の方針を提示するが、同意を得ることはできない状況であった。

【平成10年】

戦後最大の洪水が発生。一の荒手及び二の荒手の一部が破壊し、復旧工事を実施。

【平成11～13年】

* 委員会 3 回開催

二の荒手の保存方法として、可能な限り保存する方向性（1m高で保存）にて、まとめられたが、二の荒手の取り扱いに関する当委員会の結論は出さず、今後は協議会等により広く地域住民の意見も聞き、二の荒手保存方法を決定していくこととしている。

発掘調査時の様子(平成6年3月)

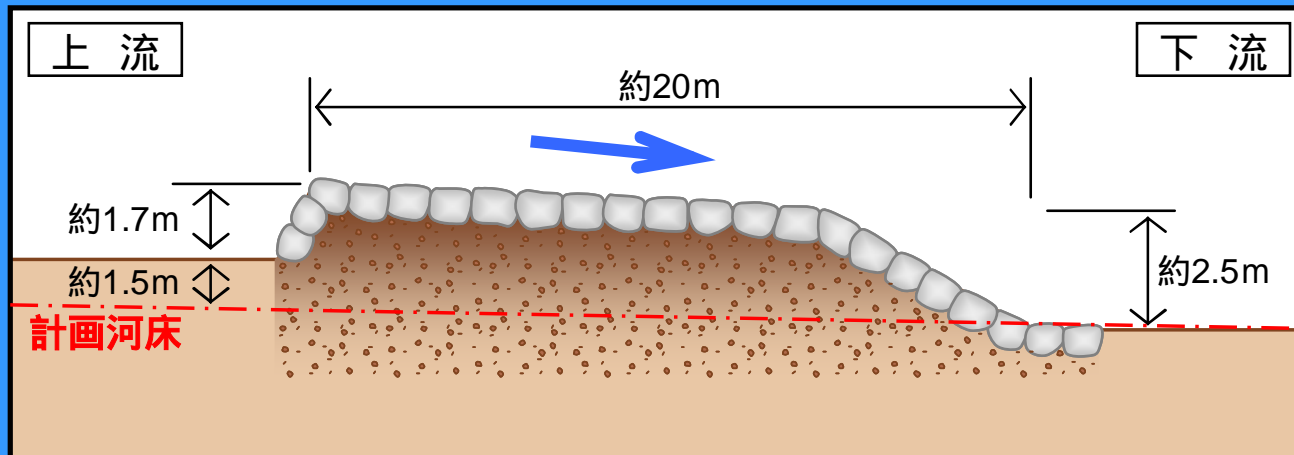


平成10年洪水による被害の様子



「二の荒手調査委員会」で提案された基本構造案

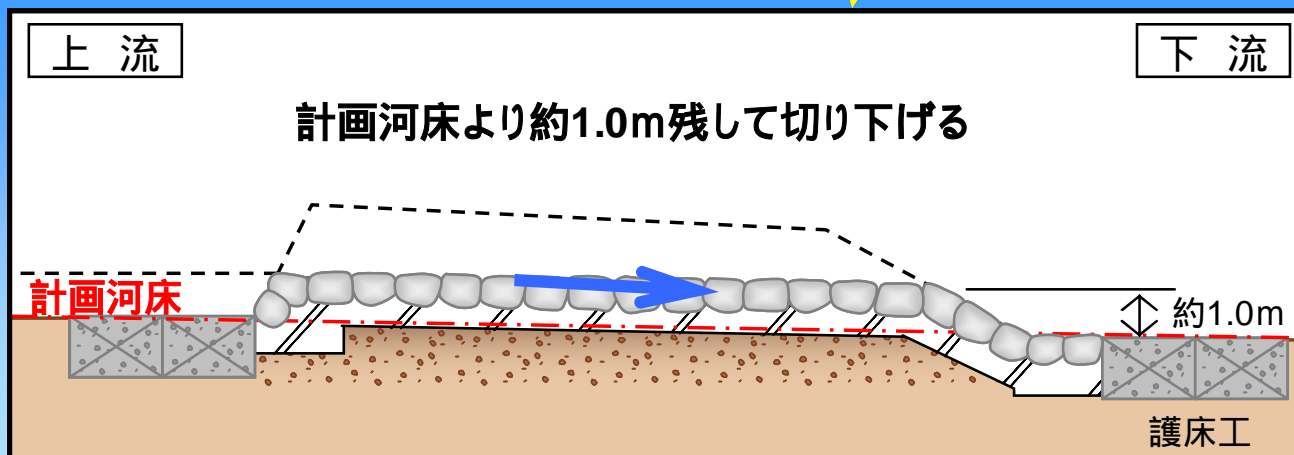
現況断面イメージ



可能な限り保存する
構造検討が必要

方向性のイメージ

1.0m高で保存



委員会としてのまとめ

高水敷部分は現況のまま保存する。

現況保存の場合でも、浄化用水の流路確保は必要。

現況保存の場合でも二の荒手が理解できる表示は必要。

河川管理者として壊れるかどうか不確定なものは取り除く考えもあるが、仮に二の荒手が壊れても安全となるような対策も含めて検討する。

二の荒手の取り扱いについて、当委員会としては結論は出さない。最終的な結論は、これまでの議論を踏まえ、もう少し広く意見を聞く場を設け詰めていく。

6-3 . 二の荒手に関する今後の検討事項（中長期計画）

1 歴史的資源としての活用について

短期計画

二の荒手は、築造当時の姿を概ね残している貴重な歴史的資源である。

短期計画では、現況のまま保存する計画であるが、河川空間の全体整備にて、この歴史的な資源をどのように活用していくかの検討が必要である。

検討事項

二の荒手の歴史性を、どのように活用するか。

2 今後の取り扱いについて

中長期計画

現状のままでは、計画洪水（ $2,000\text{m}^3/\text{s}$ ）に対し、二の荒手付近の堤防の安全性が低下するため、低水路部分について約1m高さを残し、切り下げる必要がある。

一方、貴重な歴史的資源であり「破壊されるまでは保存する」との意見もある。【二の荒手調査委員会】

検討事項

現状保存に関する議論・検討が必要。

・築造当時のイメージ



二の荒手の長さが約百間（約180m）あることから、「百間川」と呼ばれた。

・中島竹田橋整備前の様子



今後の検討事項等の整理

凡例 短期計画 中長期計画 短期・中期計画

	一の荒手の整備	背割堤の整備 周辺堤防の整備	河道(低水路)の整備	防災拠点の整備	二の荒手の整備
目的	現況に応じた洪水を確実に流す分流機能を整備する。	<背割堤> 計画の洪水が越流しない高さを確保する。	計画流量に応じた洪水を安全に流すための河道を確保する。	広域的な水防活動拠点としての機能を設ける。	計画流量に応じた洪水を安全に流すための断面を確保する。
	計画流量に応じた洪水を確実に流す分流機能を整備する。	<周辺堤防> 計画流量に応じた水衝部の安全性を高める。			
整備内容	<ul style="list-style-type: none"> 越流部の高さを下げ、幅を拡げる。 減勢池、護床工を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> <背割堤> 背割堤の高さを上げる。 <周辺堤防> 高水護岸を整備する。(左岸堤防の緩傾斜化) 	<ul style="list-style-type: none"> 百間川橋の改築までに低水路幅を拡げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 河川防災ステーションを整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 現況のまま保存する
	<ul style="list-style-type: none"> 越流部の幅を、さらに拡げる。 減勢池・護床工を拡張する。 				<ul style="list-style-type: none"> 低水路部を切り下げる。
今後の検討事項	<p>「亀の甲」</p> <p>上流側の保存・活用 下流側の移設・活用</p> <p>越流部周辺の水辺</p> <p>減勢池の活用・管理 護床工と周辺環境の調和</p> <p>細部の検討</p> <p>周辺環境との調和を図る細部の工夫等</p>	<p>利用面との調整</p> <p>高水敷利用との調整</p>	<p>自然環境の保全</p> <p>現況自然環境の保全・再生</p> <p>地域社会からの提案</p> <p>提案の把握・調整・反映</p>	<p>地域社会からの提案</p> <p>管理主体は・・・</p> <p>提案の把握・調整・反映 施設の管理</p>	<p>歴史的資源(二の荒手)</p> <p>歴史性の活用</p>
					<p>今後の取り扱い</p> <p>現状保存に関する議論・検討</p>